

月報

32号

発行所

青丘文庫

発行★韓 哲 暉 編集★金 慶 浩

〒654 神戸市須磨区須磨寺町4-3-1

メゾンド青丘ビル2階

TEL (078) 734-5989

謹賀新年

多事多端であつた一年を送り、青丘文庫もさまざまな課題をかかえつつも、希望への新しい年を迎えることができ感謝しています。

数年来の課題でありました青丘文庫法人化は、昨年、法人化実行委員会協議の結果、社団法人化が適当であるとし、本年早々にも兵庫県教育委員会に申請することになりました。なかなか条件が難しく、簡単にはいくまいと思われましたが、ともかく一歩を踏み出し、焦らず着実に進めて行きたいと思っています。

また現在の円高を大いに利用して、とくに新聞、雑誌、全集、叢書、報告など、まとまった大量の影印本などの購入に力をいれるとともに、既存の蔵書を含めての整理に努めたいと思っています。

現在もたれてゐる研究会についても、初心にもどつて活性化をはかり、機関誌も論文中心には変わりはないが、紀行文や書評を入れるなどとして、柔軟性を待たせることになりました。

ただ、この一、二年青丘文庫利用者が減つております。いろいろな理由が考えられますが、なんとか利用者を増加させたいと望んでおります。

各面でのご協力を望みますとともに、文庫への御希望、御批判を頂ければ幸いです。

一九八八年

青丘文庫

在日朝鮮人運動史研究会（第九四回）例会報告

一九八七年十一月八日（日）

大阪市立西今里中学校校史と

生徒の帰国

藤井幸之助

戦後四二年たった日本において、一九五〇年代をのぞいては公立の朝鮮人学校の存在した時期はない。

一九四九年一〇月一九日の学校閉鎖令により、朝鮮系朝鮮人学校はほとんどといってよいくらいつぶされてしまった。自分たちの学校をとりあげられた朝鮮人の子どもたちは、もはや学校に行かなくなるか、行くとしても日本人としての教育を強いられる日本の学校へ分散入学していかざるを得なかったわけである。

このため、このような子どもたちを何とかしたいと願う朝鮮人の父母たちのぎりぎりの声と日本の行政当局の強圧的な態度との妥協の産物ともいえる公立の朝鮮人学校、分校、民族学級が作られたのである。

大阪においては、民族学級をここの小学校に設置し、朝鮮人のみを収容する中学校を一つ置いた。

今回扱った西今里中学校は、公立ゆえに職業訓練に重点を置

いた学校として、一九五〇年に創立されるが、実は朝鮮人の父母の願いとは全く反対の、朝鮮人生徒を一ヶ所に集めて集団で同化教育を行おうという意図のもとに作られた学校といえる。

このような経緯で作られた学校ではあるが、朝鮮人教員も雇い、良心的な日本人教員もいたために、厳しい条件下にも朝鮮人生徒にとって奪われた言葉や歴史、文化を取り戻す重要な拠点となった。

一九五八年からの共和国への帰国運動の高まりとともに、在校生も爆発的に増えたが、行政当局が当初意図していた効果を収めるところか、かえって朝鮮人としての自覚を持つようになったため、学校を存続させる意味がなくなったのと、朝鮮人側からすれば誰からも文句の言われない朝鮮人自らの自主学校への希望とが、逆方向ながらもお互いの利害がかみあって、一九六一年に廃校にしたのち、自主学校移管となったのである。

報告では西今里中学校の沿革を追いつながら、公立学校という制約の中での日本人教師、朝鮮人教師の役割を考えてみた。

後半は帰国運動のさなか、西今里の生徒たちが一人一円カンパをして、隣接の本庄中、玉津中に記念の花瓶を贈ったことに對する玉津中の日朝生徒の感想文を紹介しながら、子どもレベルでの日朝交流をみた。

朝鮮民族運動史研究会例会（一九八七年二月二〇日）

討論會報告

朝鮮民族運動史研究会が発足してから七年、今までリーダー的役割を果たしてきた姜在彦先生から、今年三月以降後継者にバトンを譲りたいとの申し入れがあり、それをどうしていくかという問題、および機関誌である『朝鮮民族運動史研究』三号に寄せられた批判について、一二月の例会は内部の討論会にあてた。以下、簡単にその結果を報告する。

まず、今後もこの研究会を継続させていくかどうかについては、出席メンバーのほぼ全員が継続させることで一致、その場合、水野氏がリーダー的役割を担い、堀内が機関誌出版の面倒を見るべきとの意見が大勢を占めた。

つぎに『朝鮮民族運動史研究』三号に対する批判問題である。まず、飯沼論文における剽窃非難については検討の結果、剽窃にはあたらないという会としての結論を見た。

金森論文についての批判は、一言でいえばありもしない資料を引用して朝鮮の社会主義者が独立運動を否定したという点にある。これは、国粹主義風潮の現れであり、そうした風潮をまねいた研究会そのものにも責任はあるというものであった。

これに對して金森氏からは、「朝鮮の獨立運動を否定する意志は毛頭ない。ただ、抵抗した側にも問題点はなかっただろう」といふ問題意識から、誤解を与えるような表現があつたこと

は事実である」との弁明がなされた。また、研究会の他のメンバーからも国粹主義的傾向と決めつけることに對しては、強い疑問の声が上がった。

しかし、学問的な内容に対しての批判については、きちんと答えていかなければならない。実は、一昨年の九月に研究会内
部でこの論文についての書評が行われた。そのとき、水野氏か
ら数多くの疑問点が指摘されたていたのである。それから一年
以上、内容的な問題に対しては何一つ答えられていない。研究
者としての姿勢を疑うとの、厳しい指摘もされた。

結局、内容的な問題については継続審議とすることにし、まず、金森氏が批判点について答えるべきと言うことになった。

誤植の多さも反省すべき問題であつた。編集を担当した姜在彦先生からは「目を通す時間がなかつた」との痛恨の反省があつたが、校正は執筆者一人一人の問題であり、また内容についても、執筆者が指定の期日内で仕上げれば、充分な検討は可能だったのである。三号では金森論文の注のつけ間違ひをはじめ大幅な正誤表を出さなければならなくなつたことは、メンバーすべてが反省すべきである。

最後に司会を努めた韓哲曠先生の「これまではなあなあでやってきたことは否めない。今後、外部からの批判に対しては衿を正して行かなければならない」との言葉で、討論会を終えた。

☆新刊図書案内

- 『鉦山と朝鮮人強制連行』金慶海 他編著 東京 明石書店 1987.8 A5 171P
- 『世界革命運動情報(2)』世界革命研究会編 東京 レポルト社 1970.10 B5 88
- 『世界革命運動情報(3)』世界革命研究会編 東京 レポルト社 1971.2 B5 96P
- 『朝鮮の酒』鄭大聲著 東京 築地書館 1987.7 219P
- 『韓末義兵運動史研究』金錫城著 서울 高麗苑 1987.10 A5 325P
- 『상해임시정부와 白凡 金九』孫忠武著 서울 汎友社 1987.8 A5 275P
- 『恨—朝鮮人軍夫の沖繩戦』海野福寿他著 東京 河出書房新社 1987.7 A5 236P
- 『目で見る韓国の産礼, 婚礼, 還暦, 発礼』成話会編 東京国書刊行会 1987.9 A4 126P
- 『日本, 中国, 韓国「自国史と世界史」比較史』比較歴史教育研究会編 東京 ほるぷ出版1985.12 A5 386P
- 『韓国の歴史像』〈平凡社選書109〉李佑成著鶴園裕他訳 東京平凡社 1987.7 A5 289P
- 『韓国仮面劇の世界』金兩基著 東京 新人物往来社 1987.4 A4 389P
- 『韓国基督教百年史大系』1~4 서울 大韓基督教出版部
- 韓国教会発展史 全沢堯著 1987.3 A5 370P
- 韓国神学思想史 宋吉愛著 1987.3 A5 375P

☆研究会案内

①在日朝鮮人史研究関西部会例会

日 時 : 1988年1月10日(日) 午後2時

テーマ : 初期日韓会谈と在日朝鮮人の強制送還問題

報告者 : 飛田雄一

②朝鮮民族運動史研究例会

日 時 : 1988年1月17日(日) 午後3時

テーマ : 黄埔軍官学校に学んだ朝鮮人たち

報告者 : 水野直樹

●2月の研究会の予定

〈在日〉 2月14日(日) PM.2:00 梁永厚氏

〈民族〉 2月21日(日) PM.3:00 原田環氏